

PROJECT

# プロジェクトQ・第22章

若いクアルテット、モーツァルトに挑戦する

モーツァルト：ハイドン・セット全曲演奏会  
〈第2部〉

2025年3月30日(日)18:00開演

会場：TCM ホール(東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス)

主催：プロジェクトQ実行委員会

助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団 / 公益財団法人 野村財団

協力：学校法人 東京音楽大学 / 公益財団法人 日本音楽財団(公益財団法人 日本財団助成事業)

制作：テレビマンユニオン

# プロジェクトQ・第22章

## ～若いクアルテット、モーツァルトに挑戦する

### モーツァルト：ハイドン・セット全曲演奏会〈第2部〉

#### ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756–1791)作曲

弦楽四重奏曲 第 17 番 変ロ長調 K. 458「狩」(1784)

- I. Allegro vivace assai
- II. Menuetto: Moderato
- III. Adagio
- IV. Allegro assai

ルーク・クアルテット Luke Quartet

若生麻理奈／杉谷歩の佳(ヴァイオリン) 小西真璃花(ヴィオラ) 渡邊伶音(チェロ)

2024 年桐朋女子高等学校音楽科に在学する 4 人により結成。「ルーク」はラテン語で「光をもたらし、光を運ぶ」という意。一人一人の個性が合わさり、光が差し込むような音楽を作り上げたいという想いを込めて名付けた。原田幸一郎、磯村和英、神谷美千子に師事。

#### program note

---

1784 年、モーツァルトが 28 歳の時に作曲されました。「狩」という愛称は、第 1 楽章の冒頭主題が狩猟時に用いる角笛の響きに似ていることから後世に付けられたものです。親しみやすい雰囲気や当時の聴衆の好みを意識したサービス精神に溢れた構成などから、「ハイドン・セット」の中で最もハイドン的な作品とされています。緩徐楽章がアダージョと書かれているものは、6 曲のうちでこの作品のみです。この指示はすべての 18 世紀の作曲家と同様、モーツァルトにとっても、速度というより感情表出上の意図を指示するものでした。「ハイドンと競うというより、むしろ成熟したベートーヴェンを先取りしている」と評されています。

私たちは、ルーク・クアルテットを結成して約 1 年が経ちました。クアルテットの経験がない 4 人にとっては、はじめの頃の合わせでは一体どのように一緒に音楽を作っていけばいいのか戸惑いもありました。そんな中、幸せなことにマスタークラスで素晴らしい先生方から学ぶことができ、音楽の表現に色々な可能性がある事や、音楽への情熱を直接感じられたことで、私達も少しずつクアルテットの楽しさ、難しさも分かってきたような気がします。生き生きとした私たちらしい音楽を皆様にお届け出来たら嬉しいです！

ルーク・クアルテット

## 弦楽四重奏曲 第 18 番 イ長調 K. 464(1785)

- I. Allegro
- II. Menuetto
- III. Andante
- IV. Allegro non troppo

クアルテット・プリマヴェーラ Quartet Primavera

石川未央／清水 咲(ヴァイオリン) 多湖桃子(ヴィオラ) 大江 慧(チェロ)

2021 年にメンバー全員が桐朋学園大学在学中に結成。第 13 回秋吉台音楽コンクール第 2 位。ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール In Tokyo 2023 第 2 位。国内外のアーティストと多数共演し、音楽祭などにも出演している。プロジェクト Q・第 20 章、第 21 章に出演。これまで磯村和英、山崎伸子に師事。

### program note

---

様々な場所で「モーツァルトの弦楽四重奏曲の傑作」として高く評価されているこの作品は、後の作曲家、特にベートーヴェンに影響を与えた。ベートーヴェンは、弦楽四重奏曲作品 18-1 を作曲する際にこの曲を研究したと言われている。

第 1 楽章:アレグロ:ソナタ形式で作曲されモーツァルトらしいモチーフが特徴となっており、3 拍子で書かれている。

第 2 楽章:メヌエット:イ長調で始まり、カノンが用いられている。この作曲法はハイドン作曲「交響曲第 23 番」から第 3 楽章に影響されて作曲された。トリオは属調のホ長調に転調する。

第 3 楽章:アンダンテ:この楽章はこの曲で唯一ニ長調で作曲されている。主題と 6 つの変奏曲から作曲されているが、曲中間部で、ニ短調に転調するバリエーションが、モーツァルト作曲「レクイエム」と類似しているように思う。

第 4 楽章:アレグロ・ノン・トロppo:この曲は第 2 楽章同様カノンが用いられており、各パートが会話をしているような曲調となっている。このモチーフは奏者同士との会話にも聞けるが、奏者とモーツァルトの会話のようにも感じる。

クアルテット・プリマヴェーラ

\* \* \* \* \*

## 弦楽四重奏曲 第 19 番 ハ長調 K. 465「不協和音」(1785)

- I. Adagio – Allegro
- II. Andante cantabile
- III. Menuetto: Allegretto
- IV. Allegro molto

クアルテット・ルーチェ Quartet Luce

渡辺紗蘭／中嶋美月(ヴァイオリン) 森 智明(ヴィオラ) 原田佳也(チェロ)

2021 年に東京音楽大学付属高等学校に在学する 4 人により結成。現在は、東京音楽大学、桐朋学園大学に在学する 4 人から成る。「ルーチェ」とはイタリア語で「光」。輝かしい音楽を奏でられるようにという意味を込めて名付けた。プロジェクト Q・第 20 章、第 21 章に出演。サントリーホール室内楽アカデミー第 8 期フェロー。これまでに原田幸一郎、小栗まち絵に師事。

#### program note

モーツァルトの弦楽四重奏曲第 19 番「不協和音」(K. 465)は、1785 年に作曲され、ハイドンに捧げられたハイドン・セットの最後の曲です。特に第 1 楽章冒頭の不協和音に満ちた序奏が特徴的で、当時の聴衆には理解し難く、写譜の間違いとまで言われました。ハイドン自身もその前衛的な部分には距離を感じていたと言います。またこの曲がボヘミアの貴族グラサルコヴィッツ公の家で演奏された際、公が怒って楽譜を破ったという逸話もあります。これは事実でなくとも当時の反応がよく分かります。

楽章構成は、衝撃的な序奏を持つ第 1 楽章「アレグロ」、穏やかな第 2 楽章「アンダンテ・カンタービレ」、軽快な第 3 楽章「メヌエット」、活気に満ちた終楽章「アレグロ・モルト」となっています。この作品はモーツァルトの創意と技巧が詰まっており、その革新性は後の作曲家にも影響を与えました。

この作品の最大の特徴は「不協和音」と呼ばれるようになった第 1 楽章の冒頭ですが、音程感や音色、雰囲気作りにはとても苦労しました。5 回のマスタークラスの中では、毎回ボーイングを変えてみたり、配置を変えてみたり、と納得がいくまで色々なことを試しながら、様々な演奏方法を学ぶことができました。最終的にどのような演奏になるのか、私たちにとっても未知の世界であり、ホールで演奏できる日が待ち遠しいです。私たちらしく、モーツァルトのファンタジー溢れる音楽を「ルーチェ」の音で！輝かしく表現したいと思えます。お楽しみください。

クアルテット・ルーチェ

【マスタークラス(2024 年)】 会場:東京音楽大学(池袋キャンパス)

- ① 9 月 26 日(木) 講師:ヘンシェル・クアルテット
  - ② 10 月 28 日(月) 講師:クアルテット・アルモニコ
  - ③ 11 月 9 日(土) 講師:今井信子(ヴィオラ)小栗まち絵(ヴァイオリン)
  - ④ 11 月 23 日(土) 講師:クライヴ・ブラウン(音楽学)
  - ⑤ 11 月 29 日(金) 講師:原田幸一郎(ヴァイオリン、指揮) & 原田禎夫(チェロ)
- 【トライアル・コンサート】 会場:TCM ホール(東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス)  
2 月 24 日(月・祝)、2 月 25 日(火)、3 月 14 日(金)

アドバイザー:原田幸一郎

プロジェクトQ実行委員会

原田幸一郎(実行委員長) 今井信子 小栗まち絵 川崎雅夫 菅沼準二 原田禎夫

facebook



東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 South 棟 テレビマンユニオン 事業部内 Tel:03-6418-8617